

浜松市デジタル・スマートシティ 官民連携プラットフォーム 第3回運営委員会

令和8年3月27日(金)



1. 開会あいさつ

2. 基調講演

浜松市フェロー 西村 真里子 氏

「オープンイノベーションとデジタル・スマートシティ
データと共創が紡ぐ、浜松の“繋がる未来”」

3. 取組状況・各種動向の報告

4. 意見交換

開会あいさつ

委員長（浜松市副市長） 山名 裕



1. 会議参加時

- 基本的に「ビデオはON」、「音声はOFF（ミュート）」

2. ご発言時

- **オンラインでの参加者**

「音声をミュート解除」し、最初にお名前をお伝えいただいたのちにご発言ください。

- **現地参加者**

テーブルのマイクにてご発言ください。

基調講演

浜松市フェロー 西村 真里子 氏

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム 基調講演

オープンイノベーションとデジタル・スマートシティ
データと共創が紡ぐ、浜松の“繋がる未来”

2026年3月27日

株式会社HEART CATCH 西村真里子

心をつかむような 歴史の1ページ目を創る

株式会社 HEART CATCH

テクノロジー × クリエイティブ × ビジネスの交差点で
企業・自治体・研究者・スタートアップとともに、
未来を切り開く歴史の1ページ目をつくります。

提供するバリュー：

1: 構想 | Concept Design

事業・プロジェクトの最初の物語をつくり、未来像を描く
(リサーチ／アイデア創出／インサイト抽出)

2: 共創 | Co-Creation

多様なプレイヤーをつなぎ、越境コラボを起こす
(企業・自治体・研究者・アーティスト・スタートアップ)

3: 実装 | Execution Design

プロジェクトの立ち上げ・イベント・コミュニケーションまで“一気通貫”で支援



HEART
CATCH

Pollinator®として、異分野をつなぎ新しい価値を实らせる

HEART CATCH Inc. 西村 真里子

Pollinator®（受粉者）：

テクノロジー × ビジネス × アート、
企業 × 行政 × 研究者 × 海外ネットワークを飛び回り、
新しい価値を受粉する“越境のハブ”



Pollination 1. 企業・自治体・業界団体

新規接点を求める企業・自治体・業界団体向けに
企画からプロジェクト創出、実装、定着までを併走。
新たな融合・シナジーを生み出すためのクロスポリネーションを手がける。
浜松市フェロー、静岡県フェロー。



Pollination 2. スタートアップ／アカデミア

政府プログラム「J-Startup」サポート企業。
国内外のスタートアップへ出資+ビジネスサポートを行う。
武蔵野美術大学大学院 クリエイティブイノベーション学科 客員教授
Art Thinking Improbable Workshop日本代表



Pollination 3. メディア／調査

海外カンファレンス（テック・スタートアップ・カルチャー）調査・取材。
CES 14年連続メディア参加、CES Innovation Award審査員
Forbes Japanオフィシャルコラムニスト



POLLINATOR®

本日のご紹介内容

「オープンイノベーション」の重要性をAIの進化・浸透スピードの加速と
OECDレポート「AI for Advancing Smart City(2025年冬)」を軸にお伝えしていきます



AI浸透により 「共創」が不可欠

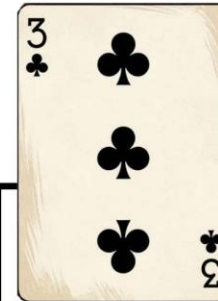
オープンイノベーションがより一層
必要不可欠に。

スマートシティーは「技術導入」から
「人間中心の共創」へ



世界の事例

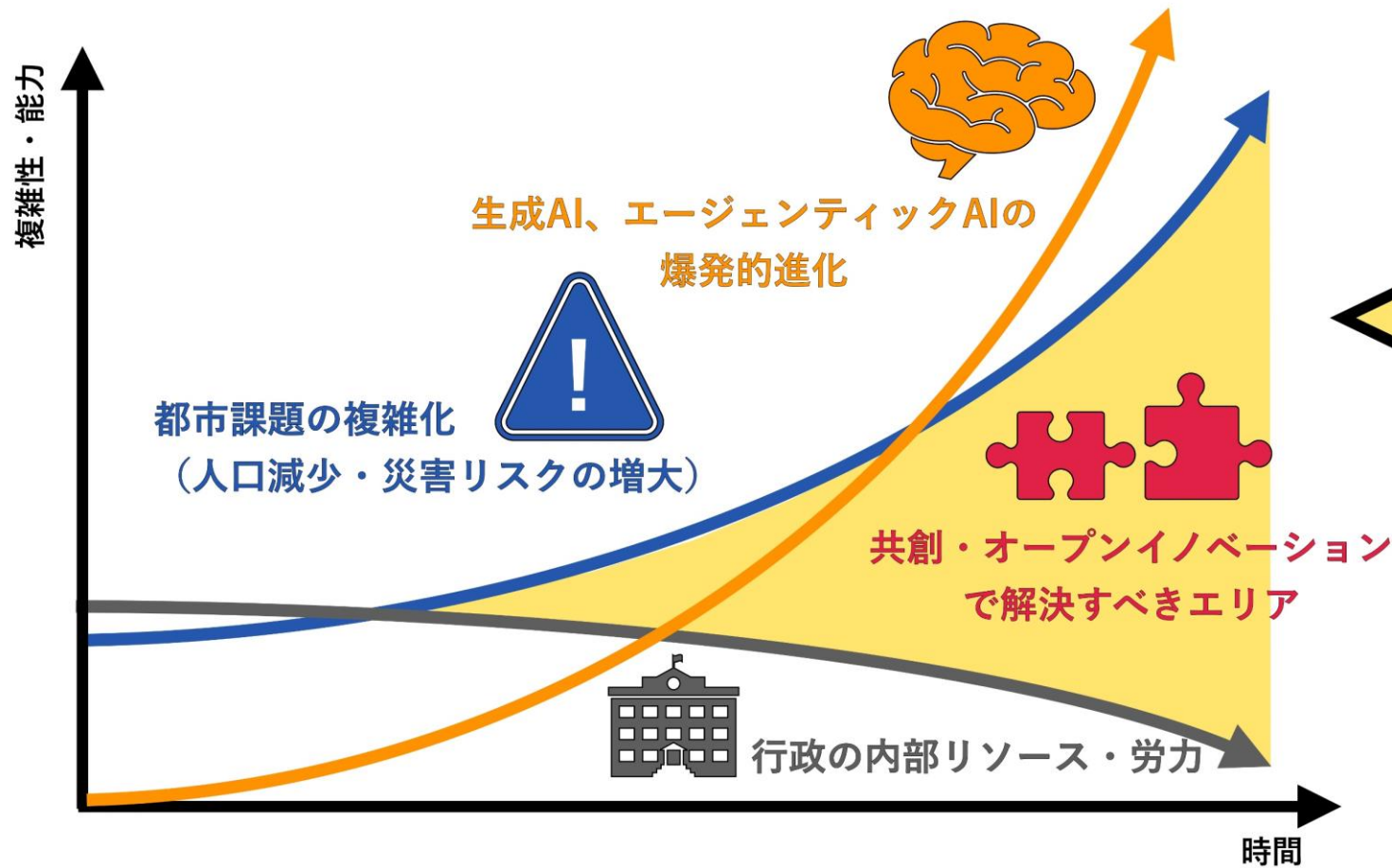
モントリオール、タンペレ、
ソウル、ロッテルダム。
OECD最新レポートが示す、
グローバル先進都市の成功の構図。



浜松の次の一手

AI時代を軸にオープンイノベーション
視点で「デジタル・スマートシティ構
想2025-2029」を見つめ直す、
官民連携プラットフォームの価値向上

行政の内部リソースだけでは、進化するAIと複雑化する都市課題に追いつけない

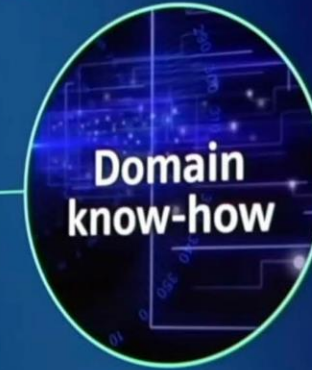


**死活問題としての
オープンイノベーション**
地元企業、市民、スタート
アップ、大学、市外人材…
**多様な知を繋ぐエコシステ
ム**を持たない都市は、
課題に対して向き合う力を
持たず、社会実装できない
時代になるのではないか



変革には「テクノロジー」「現場」「共創」が重要

Industrial **Ai** Revolution



【CES 2026基調講演】 Siemensのローランド・ブッシュCEO：

「産業AI革命（Industrial AI Revolution）」を現実のものにするためには、

一社単独ではなく強力なパートナーシップやオープンイノベーションが不可欠であると語る



AIの社会実装のためには産官学の連携が重要

Powered by the Consumer Technology Association (CTA)® About CTA Join CTA


OCES Attend Exhibit Plan Your Visit Explore CES Discover SIGN UP NOW APPLY TO EXHIBIT Q

SPEAKERS /

Dario Gil

Under Secretary for Science, Department of Energy

Dr. Dario Gil is Under Secretary for Science at the U.S. Department of Energy. His office is the nation's largest federal sponsor of basic research in the physical sciences, supporting all 17 National Laboratories of the United States, and responsible for programs including advanced computing, fusion and much more. He is the department's principal advisor on science and technology.



Sessions

Thursday, January 8
10:20 AM-11:20 AM
LVCC, North Level 2, N258

Inside Washington: Hot Topics in Tech Policy

Join us for a series of one-on-one, policy-focused conversations with senior U.S. government officials.

Conference Track
[Innovation Policy Summit](#)

CES登壇の米国エネルギー省のダリオ・ギル次官（科学担当）：
**「イノベーションを現実世界のインパクトへと変換するためには、政府、産業界、
学術界にまたがるパートナーシップが不可欠である」とステージで語る**



浜松 / 遠州のオープンイノベーション事例：和栗協議会



<https://www.shunkado.co.jp/waguri/>

**掛川栗が生産者の高齢化などの理由により生産量及び担い手減少していく課題に対し
産官学金の多様なプレイヤーにより多面的に新たな仕組みづくりを始めている**

【免責事項】

本資料に記載されている外部ウェブサイトの引用情報は、
資料作成時点の公表内容に基づくものです。
最新の情報や詳細については、各公式サイトをご参照ください。



「AI for Advancing Smart Cities」を参考に海外事例を紹介

2025年冬、OECD（経済協力開発機構）は、AI技術を都市インフラに統合し、市民の生活質QoLと環境負荷低減を両立させるための新たな国際指針を提示。「信頼されるAI」を都市の基盤（OS）とするための議論多数

メッセージ：

統合型ガバナンスの構築

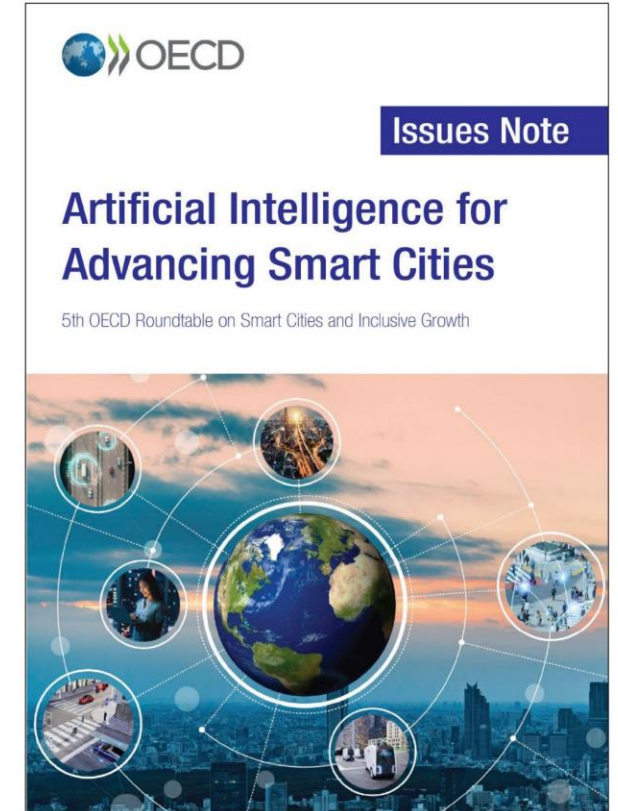
- ・ 個別最適（点）から都市全体（面）へのAI活用へ。
- ・ 自治体間のバラバラな導入を防ぐ「共通フレームワーク」の提示。

人間中心のデジタル化（包摂性）

- ・ デジタル弱者を取り残さないインクルーシブな設計。
- ・ AIのバイアス（偏り）を排除し、公平な行政サービスを実現。

ネットゼロ（脱炭素）の加速

- ・ AIによるエネルギー・交通のリアルタイム最適化。
- ・ 「環境目標」をデータで可視化し、確実な達成へ導く。



2025年10月27日開催「第5回スマートシティと包摂的成長に関するOECDラウンドテーブル」及び開催後知見を反映資料

【免責事項】

本資料に記載されている外部ウェブサイトの引用情報は、資料作成時点の公表内容に基づくものです。最新の情報や詳細については、各公式サイトをご参照ください。



人間中心のスマートシティ・フレームワーク（OECD準拠）

従来のトップダウン型（技術中心）

次世代の人間中心型（OECD提唱）

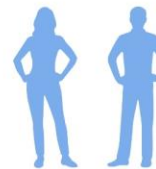
具体都市事例

ベンダー・行政主導の
仕組みづくり



主導権

市民との共創（Co-creation）
市民リテラシーの向上



フィンランド・タンペレ：
中学生から高齢者までを
巻き込むAIワークショップを実施

サイロ化された
クローズドデータ



データの在り方

相互運用性とオープンデータ
共有プラットフォームの構築



オランダ・ロッテルダム：
欧州5都市で共有するアルゴリズム
登録簿とデジタルツインを開発

インフラの「効率化」
のみを追求



目的

ウェルビーイングと社会的包摂
気候変動へのレジリエンス



カナダ・モントリオール：
AIを活用した水管理の最適化と、
マイノリティを排除しない都市デザイン

技術の
ブラックボックス化



リスク管理

アルゴリズムの説明責任
人間による監視
（Human-in-the-loop）



韓国・ソウル：
AI監視カメラのプライバシー保護と、
緊急時のみのデータ共有プロトコル



OECD 「AI for Advancing Smart Cities」

OECDが2025年に発表した報告では、技術が主導する都市から、人間のウェルビーイングを最大化するコグニティブ（認知）シティへの移行だ。その最前線を走る都市が、モントリオール、タンペレ、ソウル、ロッテルダムだ

市民のWell-Being向上



リスク管理・強靭化 ←

→ 経済・文化の復興

行政・インフラの最適化



① モントリオール（カナダ）：AIで包摂的な都市設計を可視化

1. 戦略の核：技術主導から人間中心の「コグニティブ・シティ」へ

- ・ AIAIプロジェクト：「AI Alignment for Inclusion (AIAI)」2024年9月始動
- ・ 女性、高齢者、障害者など、過小評価されてきたグループの声をAIで可視化

2. 共創の仕組み：ワークショップでAIを育てる

- ・ 市民参加型設計: 公共空間のAIデザイン案を市民が評価・修正
- ・ ニーズの反映: フィードバックをAIモデルに再学習させ、多様な人々に即した設計へ洗練

3. ガバナンス：ブラックボックス化を防ぐ透明性

- ・ 機密性の確保: データの機密性を守るため、ChatGPTのようなオープンなツールをそのまま使うのではなく 自治体の監視下にある「Microsoft Copilot」などの代替手段を検討するなど、データの機密性とセキュリティを重視
- ・ 対話の道具: AIは自動化ツールではなく、市民との対話を支える透明な手段として位置付け



<https://mila.quebec/en>

AIAIは世界トップクラスのAIエコシステム研究所のMila（ミラ・ケベック人工知能研究所）が中心的な役割を担う。AIの出力が多様性や社会的包摂といった市民の価値観に合致するよう調整（アライメント）することを目的とし、Milaはモントリオール大学やIVADO（データ価値化研究所）、カナダ・ユネスコ国内委員会、さらには民間企業を含む、広範なステークホルダー間の連携を促進している

【免責事項】

本資料に記載されている外部ウェブサイトの引用情報は、資料作成時点の公表内容に基づくものです。最新の情報や詳細については、各公式サイトをご参照ください。



②タンペレ（フィンランド）：AIリテラシーによる民主的な対話

1. 信頼の基盤：「AI4Citizens」プロジェクト

- ・ 知の民主化: AIガバナンスを専門家の閉じた空間から、市民の日常へと開放
- ・ 公共のリテラシー: 信頼と共通の語彙を構築することが、安全な社会実装の前提条件

2. 世代を超えた参加：ワークショップと対話

- ・ 多様なステークホルダー: 中学生向けのセッションや、コミュニティ・カレッジでの高齢者向けワークショップを開催
- ・ 開かれた議論: 図書館での公開対話（例：数学者と司教の対談）を通じて、AIの人間的側面を議論

3. ガバナンスへの反映

- ・ シビック・ダイアログ: 市民の声を教育やインクルージョンの指針として活用



<https://www.tampere.fi/en/city-and-decision-making/organisation/ai4citizens>

【免責事項】

本資料に記載されている外部ウェブサイトの引用情報は、資料作成時点の公表内容に基づくものです。最新の情報や詳細については、各公式サイトをご参照ください。



③ソウル（韓国）：リアルタイムデータと市民共創

1. データ駆動の即時行政：「デジタル市長室」と「S-DoT」

- ・デジタル市長室: 行政・サービス・データ分析を統合。リアルタイムダッシュボードにより、事実に基づく迅速な意思決定を支援
- ・S-DoT (都市IoT網): ソウル市内およそ1000箇所に設置され、センサーで17種類のデータ（空気質、騒音、人流等）を収集。データは公開され、スタートアップによる新サービス創出も促進

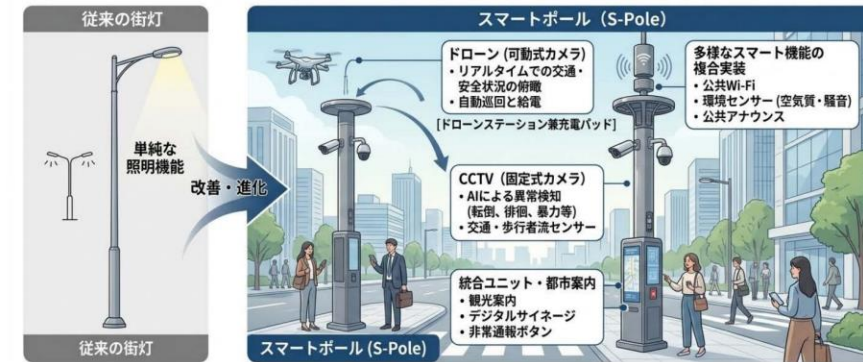
2. 次世代の都市インフラ：多機能「スマートポール」と公共Wi-Fi

- ・スマートポール: 街灯にWi-Fi、カメラ、交通センサー、緊急通報を集約。効率的な交通制御と安全確保を同時に実現
- ・デジタル・インクルージョン: 公共Wi-Fi網を公共財（Common Good）として展開。所得に関わらず全ての市民にデジタルサービスへのアクセスを保障

3. 市民との共創：「Seoul Talk」と参加型ガバナンスガバナンス：ブラックボックス化を防ぐ透明性

- ・Seoul Talk: 24時間対応のAIチャットボットが市民の質問・苦情に自動回答。行政をサービス業へと転換。
- ・共創のプラットフォーム: オンラインフォーラムやコンテストを通じ、市民のアイデアを政策に直接反映。透明性を高め、市民の信頼を醸成

ソウルのスマートポール (S-Pole)：人間中心の都市インフラの進化



交通・安全・利便性を向上させるスマートシティ・インフラ
OECD報告書に基づく人間中心のアプローチ

<https://english.seoul.go.kr/smart-poles-enhanced-with-ev-drone-charging-capabilities/>
を参考に自作

【免責事項】
本資料に記載されている外部ウェブサイトの引用情報は、資料作成時点の公表内容に基づくものです。最新の情報や詳細については、各公式サイトをご参照ください。



④ ロッテルダム（オランダ）：AI画像解析による公正な都市の実現

1. 都市データのデジタル化：

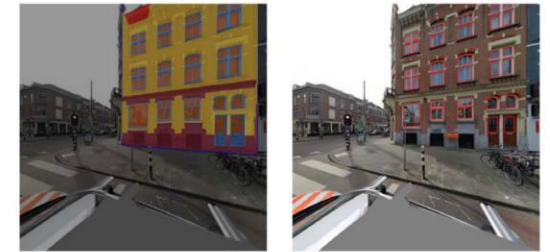
- ・ 高度な画像解析: AIシステム「Spotr」を活用し衛星・航空写真から、屋根の拡張、窓の増設、太陽光パネル設置を自動検知

2. 戦略的都市計画の統合

- ・ 洪水リスク管理: ドアの位置や敷居（しきい）の高さを把握し、浸水リスクを詳細にマッピング。
- ・ 都市計画と日照: 新築ビルが近隣住宅の「窓」に与える影や採光の影響を正確にシミュレーション。
- ・ 公共安全の強化: 警察や消防が現場到着前に建物の窓・ドアの位置を把握し、的確な初動対応を可能に。
- ・ 脱炭素の可視化: 屋根ごとの太陽光パネル設置状況を把握し、導入の可能性を最大化

3. ガバナンスと信頼：ヒューマン・イン・ザ・ループの徹底

- ・ 現地検証の義務化: AIが検知した変更は、必ず市職員が現地で確認した後に台帳を更新
- ・ アルゴリズム登録簿: 仕組みを市民に公開し、民主的な監督下で運用



The value of an enriched 3D model

Spotr develops image recognition models to map all aspects of the exterior of a building using artificial intelligence.

"This is what we were looking for," says Tjits. "We sat down with Spotr to brainstorm about what we could use the 3D model for. We didn't have any specific use cases in mind at the time. We were mainly motivated by the idea that the use of such a model is stimulated if people are actually able to recognize more details. If it's less abstract. But during the brainstorm with Spotr, all kinds of ideas arose."

<https://www.spotr.ai/customer-stories/rotterdam>

【免責事項】

本資料に記載されている外部ウェブサイトの引用情報は、資料作成時点の公表内容に基づくものです。最新の情報や詳細については、各公式サイトをご参照ください。



浜松市への提案：\混ぜなきゃ危険／

市民対話を基盤とした「次世代型オープンイノベーション・エコシステム」の構築

1. シビック・AIリテラシーの社会実装（フィンランド・タンペレ・モデル）

- ・図書館や浜松科学館などの公共施設を「都市の課題をAIでどう解くか」を議論するリビングラボへ
- ・市民を共同作成者（Co-creator）にすべく、市民一人ひとりがテクノロジーを理解し、対話に参画することで、イノベーションに対する社会的受容性を高め、持続可能な開発の土壌を醸成する

2. 「デジタル公共財」の開放と戦略的テーマの提示（韓国・ソウル & 東京都、CESモデル）

- ・世界的なAI学習データの枯渇（2026年問題）に直面する今、自治体が保有する信頼性の高いオープンデータは、AI開発者にとって極めて希少な戦略的資源となる。浜松のデータを「デジタル公共財」と再定義し、スタートアップやエンジニアを惹きつけ、産業関係人口を増やす
- ・「浜松発・産業AI革命」等の強力な戦略的テーマを掲げ、地元企業・スタートアップ・大学がデジタル公共財を媒介に共創するためのプロデューサー機能も強化し、産業に有効なオープンイノベーションを実現する



Thank you for your listening!

取組状況・各種動向の報告



デジタル・スマートシティに関する取組報告（実績報告）

課題解決に向けたアイデアとソリューションの充実

若者の巻き込み

交流の場の充実

ソリューションピッチ&ミートアップ（交流・連携促進イベント）

PF会員間の連携促進等を目的に、ミートアップイベントを開催

開催概要

日時：令和8年1月13日（火） 14:45～16:30

会場：浜松市地域情報センター3階 第1研修室

会員によるソリューションピッチ

パイフotonクス株式会社	ホロライトとデジタルツインを用いた安全対策の可視化・定量化
ためま株式会社	万博出展。未来の地域情報サービス～住民を地域のつくり手に転換し500mから世界を変えるNXプラットフォーム「ためまっぷ」～
株式会社ミライエ	多言語即時翻訳・音声合成放送システム
NTT西日本株式会社	ローカル5G & 点検ロボ
株式会社LODU	コレクティブインパクトゲーム

市の抱える課題の発表

土木部 道路保全課	デジタルを活用した効率的な道路損傷の検出
-----------	----------------------

浜松市ウェルビーイング・アイデアコンテスト受賞者による発表

中学生・高校生の部	最優秀賞	『佐鳴湖でランニング苗木駅伝』～音と緑と好きな植物で学び道～
大学生・大学院生・専門学生の部	優秀賞	『移動から始めるwell-beingの再設計』～山里を日常圏へ～

60名が参加

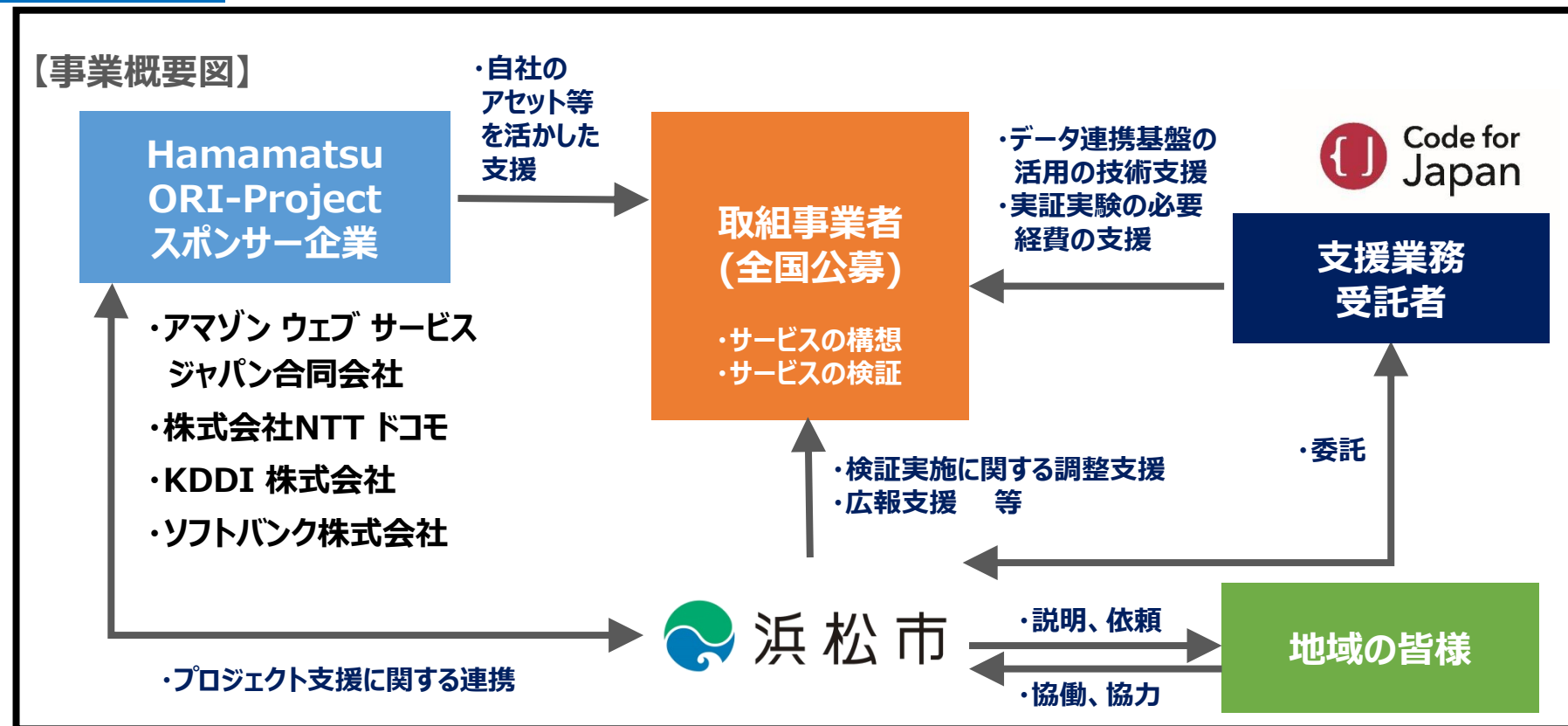
- ・企業・団体、個人 31名
- ・浜松市役所 29名



- ・ 浜松市データ連携基盤を活用した新たなサービスやアプリケーションの創出を目指す取組（サービスの構想及びその検証）に対し、浜松市や連携支援団体が総合的な支援を行う
- ・ 令和2年度からスタートし、令和6年度までに25件の実証実験を支援

➤ Hamamatsu ORI-Project 正式名称：浜松市データ連携基盤活用モデル事例創出事業

事業の目的 データ連携基盤を有効活用した新たなサービスやアプリケーションの官民共創



今年度のHamamatsu ORI-Projectでは、次の2つの取組を並行して実施

Hamamatsu ORI-Project

1 地域課題解決型（データを活用した地域課題の解決策の検証）

市内の各部門から提示された課題テーマについて、データを活用して解決を図るプロジェクトを公募し、有望案件について浜松市内における実証実験を支援。

2 “データ・フュージョン・キャンプ2025”の実施

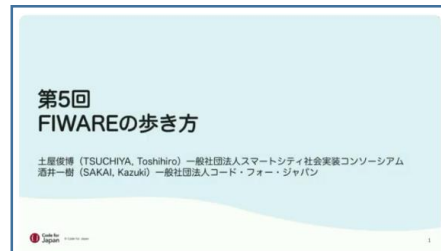
浜松市データ連携基盤に接続されたデータ等を活用した、新たなサービスやアプリの構想支援に資するイベント（ハッカソン及びアイデアソン）を開催し、当該イベントを通じて創発された有望なサービスやアプリの試作プロジェクトについて継続して支援。

今年度のHamamatsu ORI-Project（地域課題解決型）の採択案件

- 地域課題解決型として下記5件の実証プロジェクトを採択し、今年度内の支援を実施
- 提示した地域課題テーマ全てについて実証プロジェクトを採択することができた

地域課題テーマ	採択事業者名	実証プロジェクト名称
「The Gate HAMAMATSU」跡地の効果的な利活用の検証	株式会社パナソニック システムネットワークス開発研究所	センシング技術による社会課題克服
ヘルスケアアプリ「はままつ健幸クラブ」登録者増加及び行動変容の促進	株式会社ネミエル	睡眠不足解消から始まる健幸づくりプロジェクト
サルからの農作物被害軽減	企業組合フジヤマドローン	ファームレスキュードローンプロジェクト
データ連携基盤に接続済みのデータを活用した地域の課題解決や活性化	株式会社アライデザイン工芸	「自主防災サイネージ」（衛星通信併用型）
新たな通信方式による防災同報無線の検証	株式会社ミライエ	吹鳴状況の把握が可能なIP同報放送システム

- 10月17日（金）、アイデアソンをオンラインで開催し、アイデア創発とチーム組成を実施
- 参加者は、専用のSLACKチャンネルに参加し、データ連携基盤の研修動画を各自で視聴
- 10月30日（木）、浜松市中央区のCo-startup Space & Community FUSEを会場として、ハッカソンを開催



研修動画（全6回）
（YouTubeに公開）



ハッカソン開催の様子

下記の3チームがデータ連携基盤を活用したサービスのプロトタイプを開発

津波生存戦略室

年齢や移動手段（歩く、走る、自転車）等の条件を入力すると、現在地付近にある津波避難施設の高さや避難経路が地図上に表示されるアプリ“ココイケ”。実際に避難に掛かった時間を計測する機能もあり、避難訓練の際に使用してもらうことで、避難に掛かる時間のデータを蓄積し、防災計画の検討にも活かせる。

● シャッターチャンス！

まちなかのイベントに参加した人が、感想や撮影した写真、その時の混雑状況（体感を投稿し、他の人に共有できるアプリ”シャッターチャンス！”。リアルタイムの混雑緩和につながるほか、イベント時のにぎわい状況のデータを蓄積することでまちなかでイベントを企画する人の参考にしてもらうことを目指す。

● ITソリューション室

浜松駅付近の駐輪場の満空状況をカメラと画像認識AIを用いてリアルタイムに分析。分析した満空状況をWEB上のマップにてわかりやすく表示することで、ユーザーを空いている駐輪場に誘導し、まちなかに自転車で来訪する人の満足度向上につなげるサービス“ちゅーりんうおっち”。

- 過年度のHamamatsu ORI-Projectの支援案件など、データ連携基盤を活用したサービスの地域実装に向けた取組に対する補助制度
- 令和4年度から開始し、令和6年度までに8件の活用実績

目 的

本市においてデータ連携基盤を活用したサービスの実装（調査や実証実験にとどまらず、継続的なサービス提供を開始すること）に向けて取り組む民間企業を支援し、データ連携基盤を有効活用した先端サービスの実装により本市の課題解決や市民の生活の質の向上を図るとともに、本市発の新たなイノベーションの創出を目指す。

事業概要

- データ連携基盤を活用したサービスを本市において早期に実装することを目指して取組を行う事業者に対し、その取組に必要な資機材のリース費用、取組の協力者への謝金、国内の交通費等を補助する「浜松市データ連携基盤活用サービス実装支援補助金」を創設し、運用する。
- 補助金額は、補助上限額150万円/件（採択年度中にデータ連携基盤とのデータ連携を行う案件の場合250万円/件）、補助率1/2以内

下記の1件を採択し、データ連携基盤を活用したサービスの地域実装を支援

ノバルス株式会社



事業名称

データ連携基盤と高齢者見守りサービスの防災情報連携

事業概要

ノバルス株式会社が提供する単三電池型IoTデバイス（単三電池として使用でき、家電のスイッチON/OFF等を検知し、発信することが可能）を活用した見守りサービスに、浜松市データ連携基盤に格納されている防災情報（市内の雨量計や水位計の観測情報など）を自動連携させることで、見守り対象者の住所付近のリスク情報を対象者の家族等に配信できるようにし、サービスの付加価値向上を図る。